

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 7 巻第 39 号

第 39 週(9月24日～9月30日)

発行年月日:平成19年(2007年)10月4日

発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

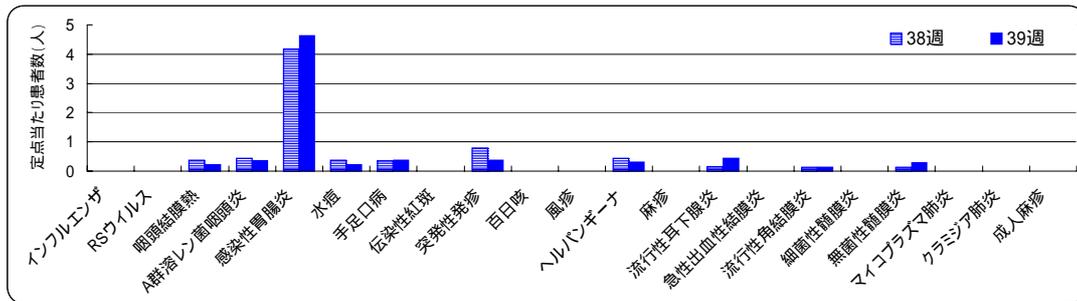
感染性胃腸炎の発生は昨年同時期より増加!!

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、前週の報告数とほぼ同じです。今週増加した疾患は感染性胃腸炎、手足口病、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)および無菌性髄膜炎です。その他の疾患は減少あるいは横ばいとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

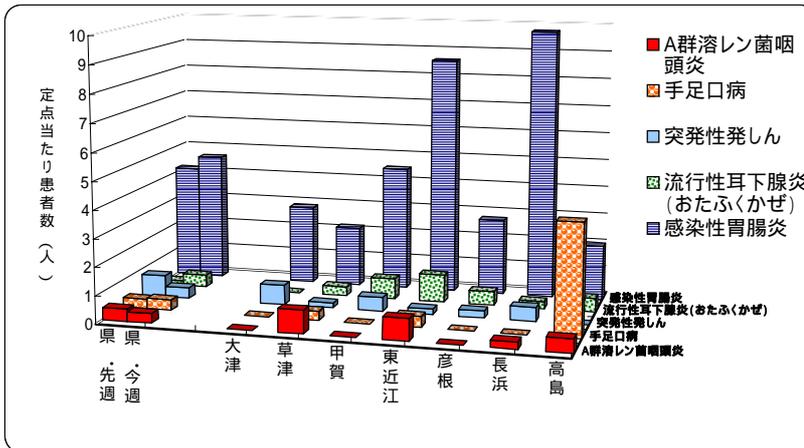
「感染症発生動向調査に基づく感染症の警報・注意報システム」によると、咽頭結膜熱(プール熱)では先週に引き続き、東近江に警報が発生しています。

全数把握対象疾患では、二類感染症の結核で5名、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症で1名およびパラチフスで1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



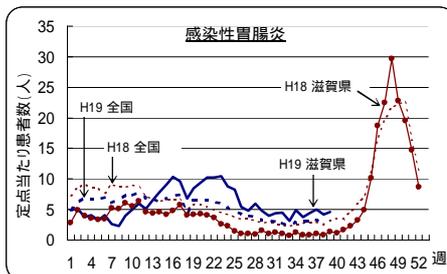
上位5疾患の発生状況(定点把握対象五類感染症、第39週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおり、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、突発性発疹、手足口病、A群溶レン菌咽頭炎の順に多くなっています。

感染性胃腸炎は甲賀および東近江で急増し、長浜では先週に引き続き多い状態となっています。また、手足口病は先週と同様、高島で多くなっています。

感染性胃腸炎の発生に注意



平成19年第13週以降(3月26～4月1日)における定点当たり患者数は昨年の同時期より多くなっています。保健所管内別では、特に東近江および長浜で多くなっています。例年、秋～冬季にかけて増加しているため感染予防についての注意が必要です。

予防のための注意:

- 1) 十分な手洗いとうがいを必ず行う。
- 2) 食品(かき等)は十分に加熱調理する(食品の中心温度は85℃1分以上)。
- 3) 使用する調理器具を消毒する。
- 4) 患者との濃厚な接触を避ける。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

平成18年12月8日に感染症法の一部改正が公布され、平成19年4月1日から施行されています。同法に基づき結核は二類感染症に、またコレラ、細菌性赤痢は三類感染症に分類されています。

感染症類型	疾患名	報告数 (39週)	累積報告数		平成18年報告数	
			滋賀 (39週)	全国 (39週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	結核	5	129	10,226	-	-
三類感染症	コレラ	0	0	10	1	47
	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 2	383	^{(*)3} 6	483
	腸管出血性大腸菌感染症	1	44	3,402	54	3,910
	パラチフス	1	1	15	0	24
四類感染症	E型肝炎	0	0	43	2	70
	A型肝炎	0	0	116	21	316
	デング熱	0	1	71	0	57
	マラリア	0	1	37	0	61
	レジオネラ症	0	6	471	11	508
五類感染症	アメーバ赤痢	0	9	587	8	738
	ウイルス性肝炎	0	1	172	0	275
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	4	110	0	177
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	77	6	107
	後天性免疫不全症候群	0	6	1,081	8	1,301
	ジアルジア症	0	1	38	1	87
	梅毒	0	0	512	4	625
	破傷風	0	0	71	1	115
	急性脳炎	0	2	176	1	160

*1:平成18年報告数は、平成19年に滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分です。

*3:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第39週(9/24～9/30) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: デング熱 2例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群 16例
二類感染症: 結核 185例	つつが虫病 1例	クロイツフェルト・ヤコブ病 2例
三類感染症: 細菌性赤痢 8例	日本紅斑熱 3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2例
腸管出血性大腸菌感染症 105例	日本脳炎 2例	ウイルス性肝炎 1例
パラチフス 2例	ライム病 1例	急性脳炎 1例
四類感染症: E型肝炎 1例	レジオネラ症 18例	破傷風 2例
Q熱 1例	レプトスピラ症 1例	梅毒 8例
	五類感染症: アメーバ赤痢 8例	
	ジアルジア症 1例	

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点^{*}から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。^{*}疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(平成19年第34～39週、8/20～9/30)

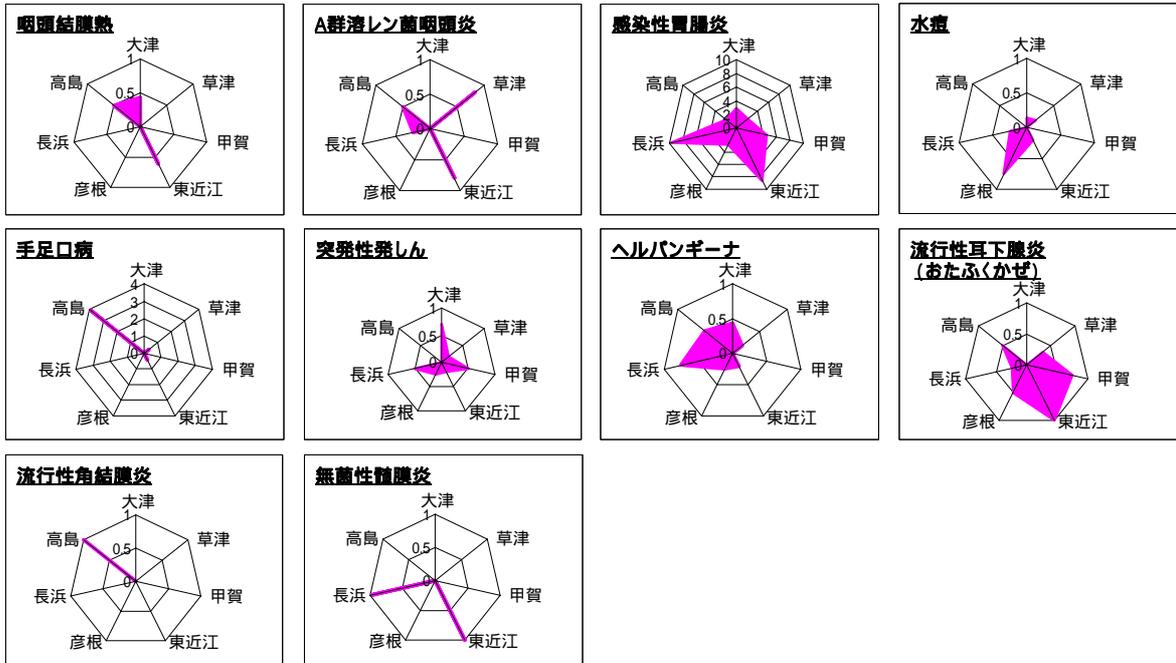
疾患名	定点当たり患者数(前週より増加 前週と同じ 前週より減少)						
	34週	35週	36週	37週	38週	39週	
	(8/20～)	(8/27～)	(9/3～)	(9/10～)	(9/17～)	(9/24～)	35 36 37 38 39
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0.06	0	0	0	
咽頭結膜熱(プール熱)	0.50	0.44	0.16	0.16	0.38	0.22	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.34	0.53	0.28	0.44	0.34	
感染性胃腸炎	4.94	3.81	4.34	5.00	4.16	4.63	
水痘	0.63	0.28	0.31	0.25	0.38	0.22	
手足口病	0.50	0.25	0.25	0.09	0.34	0.38	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0.19	0.22	0.09	0	0	
突発性発疹	0.69	0.44	0.50	0.72	0.78	0.38	
百日咳	0	0	0.03	0.03	0	0	
風しん(三日はしか)	0.03	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	1.25	0.69	0.81	0.69	0.44	0.31	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.44	0.25	0.13	0.38	0.16	0.44	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.71	0.29	0.57	0.43	0.14	0.14	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.29	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0.14	0.14	0.14	0.14	0.29	
マイコプラズマ肺炎	0	0.14	0.29	0.29	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第39週、9/24～9/30)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱(プール熱)	0.22	0.43	0	0	0.60	0	0	0.50	■
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	0	0.83	0	0.80	0	0.25	0.50	■
感染性胃腸炎	4.63	2.86	2.17	4.50	8.60	2.75	9.75	2.00	■
水痘	0.22	0.14	0.17	0	0.20	0.75	0.25	0	■
手足口病	0.38	0	0.33	0	0.40	0	0	4.00	■
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発しん	0.38	0.71	0.17	0.50	0.20	0.25	0.50	0	■
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.31	0.43	0.17	0	0.20	0.25	0.75	0.50	■
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.44	0	0.33	0.75	1.00	0.50	0.25	0.50	■
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	0	0	1.00	■
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	0	1.00	0	1.00	0	■
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加
 ■ は警報発生中
 ■ は注意報発生中
 0 1 2 3 4 5
 定点当たり患者数(人)

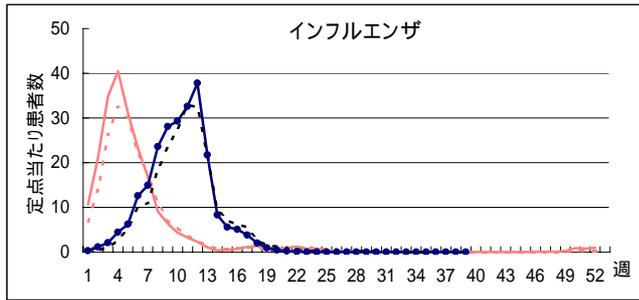
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



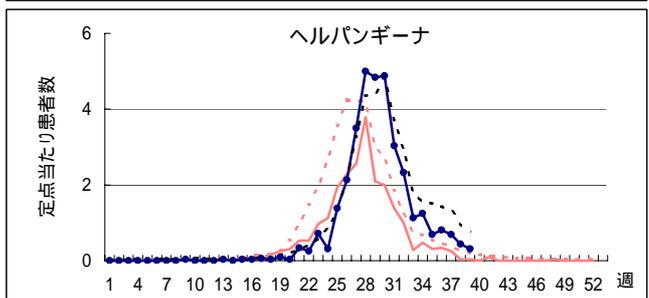
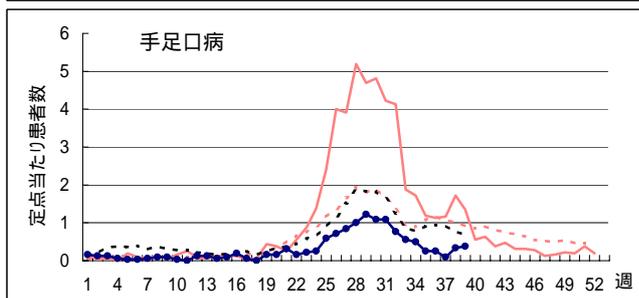
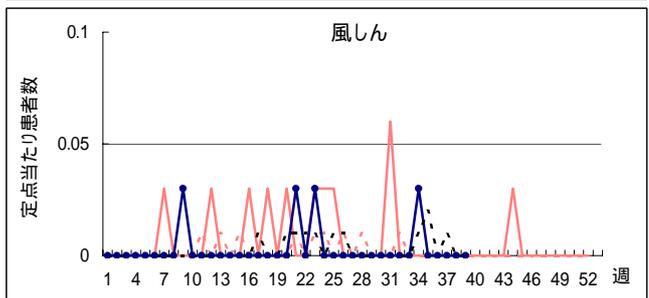
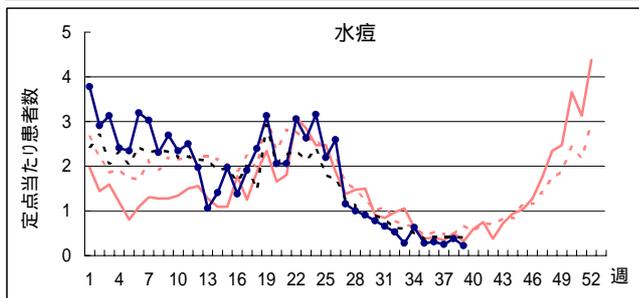
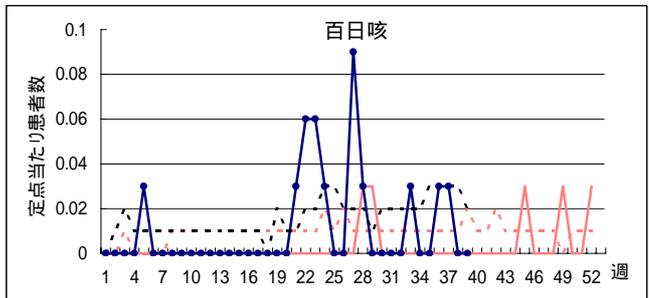
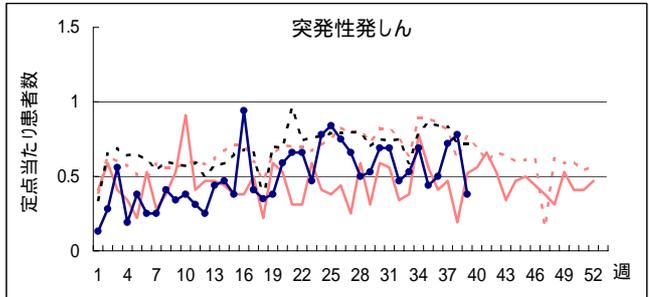
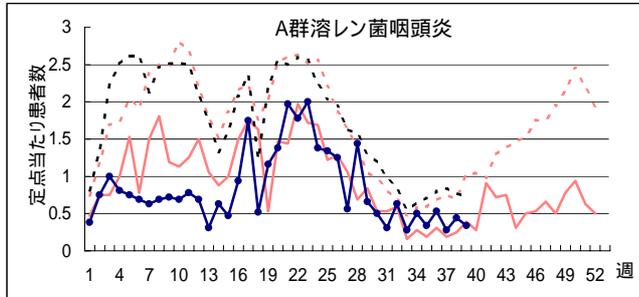
今週の発生状況：

- 咽頭結膜熱-----県全体では先週より減少していますが、東近江では定点当たり患者数が警報継続基準値(0.10)を超えているため、先週に引き続き警報が発生しています。
- 感染性胃腸炎-----県全体としては先週より増加し、甲賀および東近江で急増しています。また、長浜では先週とほぼ同じですが、定点当たり患者数は9.75と多い状態が続いています。年齢別では、～11ヶ月 19.6%、1歳 16.2%、2歳 12.8%、3歳 14.2%で3歳以下が全体の62.8%を占めています。
- 流行性耳下腺炎-----甲賀、東近江および彦根で先週より多くなっています。
- 無菌性髄膜炎-----第35週以降5週連続して報告があり、特に東近江からは4週連続して報告されています。また、第1～39週までの報告数は男性5名および女性4名です。年齢別では5歳3名、6歳2名、7歳1名、8歳1名および10～14歳2名となっています。

疾病別定点当たり患者数(平成19年第1週～第39週、H19.1.1～H19.9.30)



H18 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H19 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成19年第1週～第39週、H19.1.1～H19.9.30)

H18 〔 滋賀 ————
 全国 - - - - -

H19 〔 滋賀 ●—●—●—
 全国 - - - - -

